

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2774800383		
法人名	株式会社 ラポール		
事業所名	グループホーム和み庵		
所在地	松原市北新町1-3-18		
自己評価作成日	平成 28年 5月 1日	評価結果市町村受理日	平成 28年 7月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2774800383-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 6月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の皆さんが毎日落ち着いて暮らし、楽しく過ごせるように、日々いつでも利用者さんの訴えや要望に対して出来る限り応えるよう努めています。又、見守りを強化する(見守りの意識を高める)事で大きな事故に繋がっていません。 ・地域行事への参加、毎日の散歩など外出に力を入れています。 ・利用者さんの持っている能力を活用しながら、また皆で協力しながら生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>株式会社ラポールが市内初のグループホームとして開設し運営している1ユニットのグループホームです。最寄り駅から1分の閑静な住宅地にあり、雨が降れば干しているふとんを近所の人に取り入れてくれるような温かい近隣関係を築いています。玄関横にベンチを置いて道行く人々の休憩所にしており、利用者との交流の場になっています。利用者は地域行事に参加し、小中学生との世代間交流も楽しんでいます。ホームでは毎朝のように散歩に出かけ、職員は利用者が自分で歩く力を保てるように支援しています。職員は利用者と共に献立を考え、新鮮な食材を選んで3食とも手作りをしています。利用者は下ごしらえやおやつ作り等で力を発揮し、喫茶店で茶菓を楽しむ等の支援も受けています。ホーム内は清潔で明るく家庭的な雰囲気があり、職員はやさしく活発で利用者や家族のような関係を築いています。緊急時には提携医師と連携して24時間365日の医療連携支援を受ける事ができます。管理者は熱心で地域連携や職員研修等にも尽力しており、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を目の付きやすい場所に掲示しています。</p>	<p>「利用者及び事業所全体が、地域に役立ち貢献できる活動へ積極的に参加し、人の輪、地域の和を大切にします」とした地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をホーム内に掲示し、職員間で共有しています。職員は理念を具体化し、地域との連携を大切にしながら利用者支援を進めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小・中学校の行事に参加したり、当ホームに十数名の子ども達が来訪し、交流できる機会を作っています。又、運営推進委員会時に情報交換をして地域行事の予定を確認し、参加するようにしています。 毎日の散歩ですれ違う方々と挨拶を交わし、顔馴染みが多いです。	近隣とは「雨が降ったら干しているふとんを取り入れてもらえるような」温かい関係を築いています。地域フェスティバルや運動会等、地域や学校行事等にも参加しています。学校からの施設訪問依頼を受けて学童と利用者との世代間交流の場にはしています。職員は利用者と共に毎日のように散歩に出かけ近隣住民と馴染みの関係を深めています。ホーム玄関前にベンチを置いて道行く人の憩いの場を設け、利用者と交流できるようにしています。近隣の喫茶店やレストランに出かけて歓談したり、ホームにボランティアを招いて催しものを楽しんだりするなど地域との繋がりを大切にしています。管理者を中心に認知症に関する家族介護教室を公民館等で開催するなど、地域貢献にも取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	25年度より「認知症の理解」「認知症予防」などを目的に、市の委託事業である家族介護教室を行っています。又福祉委員などと連携を図り講習等も行っていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族、民生委員、市の方々の意見を聞き又情報を収集し、利用者が生き生きと楽しく生活が送れる様、地域の行事等にも参加しています。</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回、年6回の定期開催をしています。メンバー構成は利用者・家族、民生委員、市役所職員、ホーム職員等としています。会議では職員が利用者の日常の様子を分かりやすく報告して、事故防止などの対策等について話し合い意見交換しています。会議で出された提案等は速やかに職員間で共有しホーム運営に活かしています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進委員会の時に様々な情報交換を行っています。</p>	<p>市担当者とは日頃から情報交換や利用者支援についての相談をしています。市の委託事業を受けて家族介護教室を開催し、「認知症の理解」「認知症予防」に努めています。管理者は市内に開設しているグループホームの交流に力を入れ、今年度はグループホーム連絡会会長に就任して協力関係を深めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>研修を行い、身体拘束のないケアに努めています。</p>	<p>ホームでは「身体拘束をしないケア」を重視しています。管理者は内部研修を実施して職員の意識を高め「身体拘束をしないケア」を徹底しています。また、「してはだめ」などの禁止用語は極力使わないように職員間で申し合わせています。ホーム内のエレベーターは自由に昇降できますが、1階玄関には利用者の安全確保を理由として終日施錠をしています。</p>	<p>利用者の安全確保を十分に検討した上で、鍵をかけないケアの徹底が望まれます。玄関の鍵は内側からは誰でも開けられる鍵に変更してはいかがでしょうか。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修を行い、又職員の言動を職員同士が注意しあい、虐待につながる事のない様に日頃から気を付けています。親切、丁寧なケアに努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を用いて、分かりやすく説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に現状の報告や要望等の聞き取りを行っています。又、運営推進委員会で報告を行っています。	家族が来訪されたら職員から声をかけて意見や要望を聞くようにしています。月に1回「和み庵便り」を家族に送付し、ホームの行事や利用者の状況を報告して意見や要望を聞いています。運営推進会議には複数の家族が委員として参加できるように配慮しています。ホーム内に意見箱を設置し意見を出しやすくするような雰囲気作りをしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月1回のスタッフ会議の時に意見交換を行っています。	管理者は日常的に職員の意見を聞きホーム運営に活かしています。職員は毎日の申し送りや毎月の定例会議で利用者支援について話し合い、積極的な意見交換をしています。代表者はホームに出向き利用者や職員の声を直接聞く機会を設けています。また、法人全体の会議を行い、課題を共有すると同時に職員間の交流を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>希望公休が取りやすく、労働時間も短いので身体的に無理なく働ける環境作りに努めています。また会議等の中で職員全員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的な内部研修の開催と外部研修への参加を促すために案内を周知しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>昨年度より、グループホーム連絡会が出来、定期的に交流が図れています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談等があれば早期に面談を行い、解決できるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談等があれば早期に面談を行い、解決できるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて、他の相談機関を紹介したり、専門機関に繋げるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中の役割を持ち、ホームの一員である事、人の為になっている事を実感してもらっている。基本、出来る事は何でも職員と一緒にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会には出来る限り家族が参加できるように日程を調整し、一緒に楽しい一時を過ごして貰っています。またその他の行事にも多くの家族が参加しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月親類とお墓参りや、温泉等に行かれている方がいます。家族がボランティアしている神社へ、本人を見学に連れて行っています。	利用者は馴染みのスーパーに買物に出かけて知り合いと談笑したり、ホーム周辺を散歩して近隣住民と挨拶を交わしたりしています。家族等の協力を得て墓参りや昔馴染みの温泉等に出かける利用者もおられます。希望があれば利用者が電話をかけたり、手紙を出したりする際の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をきちんと把握した上でグループに分かれてレクリエーションを行ったり、輪になって皆で体操を行ったりして、利用者同士が関わり合えるように職員が間を取り持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も福祉委員で活動されているご家族様の相談を受けりしています。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、本人に確認しながらサービスを行っています。困難な場合は家族やスタッフ間で相談、話し合いながら決めています。	職員は利用者一人ひとりの意向を確認しながら日常支援をしています。言葉で表現できない場合には利用者一人ひとりの表情やしぐさから読み取れる意向を大切にしています。判断の難しい課題がある場合には家族と職員の意見を交えて検討し、利用者本位に支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、面会時に利用者及び、家族より生活歴等は必ず聞き取り把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り時等に利用者の心身状態の変化等を確認し、現状把握に努めながら、ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成にあたり、本人及び家族と話し合い、又職員同士で意見を出し合い計画に反映しています。</p> <p>毎日の申し送り時に状態変化はないか常に把握に努めています。</p>	<p>介護計画書の作成時には本人と家族の希望を重視して話しあっています。</p> <p>また、本人及び家族の意見を具体化する為に、職員間で再度話し合い対応方法などを決めていきます。介護計画書は毎日の申し送り時や毎月の定例会議で変更の必要について確認し、必要があれば随時見直しをしています。アセスメント、モニタリング記録は職員間で共有し活用しています。</p>	<p>ホームでは利用者一人ひとりの楽しみ事支援について、さらに充実するよう職員間で取り組みを進める予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録を確認し、必要な時は介護計画を見直し変更しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>未実施。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域へ出向いて行事に参加し、楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科、心療内科の往診と週1回訪問看護及び歯科に来てもらっています。主治医、訪問看護は24時間365日緊急時の対応が可能です。	本人や家族の希望する医療機関で適切な治療が受けられるように支援しています。ホームでは利用者の希望に添って月2回、内科及び心療内科医師の往診を受けています。また、週1回の歯科医師訪問を受けています。眼科、皮膚科等の受診が必要な場合には家族と相談して職員が受診支援をしています。緊急時には24時間365日の医療連携支援を受ける事ができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護のサービスを利用しています。訪問時及び電話連絡にて相談、適切な看護等を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中、状態を把握するために定期的に面会し、家族や病院関係者と情報交換をし、退院等の検討、確認をするよう努めています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所前に重度化等でグループホームでの生活が困難になった場合の対応方法について説明しています。</p> <p>終末期の対応は可能です。</p>	<p>入所時には重度化した場合の対応について本人や家族に説明をしています。終末期の看取り支援については利用者・家族の希望に添った取り組みを進めています。重度化して医療依存度が高まった場合には家族、主治医と相談して支援内容を検討しています。最近では終末期支援を希望される場合も多く、職員の研修を行いながら看取り支援の充実に取り組んでいます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に研修を実施しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、災害発生時の備えとして食材や飲料を備蓄しています。	消防署と連携して年に2回の災害時避難訓練を実施しています。また、非常時には地域の協力が得られるように近隣に依頼しています。ホーム1階の事務室等に災害時備蓄として水、ジュース、食品、卓上コンロ等を保管しています。今後は備蓄量についても職員間で再検討する予定です。	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録には管理者が目を通しチェックを行う。また研修も含めその都度口頭で指導するよう努めています。	職員は利用者が楽しく過ごせるように、気分や感情を大切にした支援に努めています。利用者の誇りやプライバシーに配慮して、接遇面では特に言葉のかけ方を工夫しています。なれなれしくならず、やさしい言葉で返す、丁寧な介護をするように職員間で注意喚起しています。管理者は内部研修を行い、適切な対応方法について職員に指導助言しています。記録等については厳重に保管するよう職員間で徹底しています。職員は採用時に守秘義務に関する説明を受け誓約書を交わしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	必ず本人に説明を行い、納得した上で行うようにしています。		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	強制するような事は全くなく、本人の要望、体調、気分に応じて出来る事を楽しくしてもらっています。又、趣味活動で希望等があれば、提供するよう努めています。		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	入浴後は化粧水や乳液、ヘアスプレーを使用しています。 髪止めを付けたりマニキュアを塗ったり、行事の時はお化粧もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買物に行ったり、配膳、下膳、食器拭きも同様です。	ホームでは職員が利用者と相談して献立を決め、買物に出て新鮮な食材を購入し、3食とも手作りにしています。利用者は時には買物に同行し、皮むきや千切りなど調理の準備では得意なことを一緒にしています。おやつ作りを楽しんだり、喫茶店で茶菓を楽しんだりすることもあります。身体状況に応じてトロミ食、ミキサー食も手作りにしています。利用者は職員の丁寧な介助を受けてゆっくりと自分のペースで食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が少ない時には、チェック表に記録し、職員全員が把握するようにしている。目標量に近づけるようケアに努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の指導のもと、個々に応じた口腔内清掃をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回排泄表に記入、排泄パターンを把握し、日中は全員がトイレで排泄できるようにしています。	職員は排泄表を記載し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、尿意を表現できない場合でも、時間をみて誘導するなど、さりげなく、プライバシーに配慮した支援をしています。ほとんどの利用者が日中はトイレで排泄しています。職員はトイレ誘導の際にも安全を考慮して手引き歩行を行ない、利用者の体力や残存機能を活かすように支援しています。夜間はポータブルトイレを活用したり、利用者の状況に合わせた対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操と散歩、水分量の確保に努め、便秘時は腹部マッサージをするなどして、出来る限り自然排便を促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と順番は決めているが、その時の体調や気分によって柔軟に変更し対応しています。	利用者は週2～3回の入浴を楽しんでいます。利用者の入浴日や順番等は希望に添って職員が決めていますが、体調、その他により臨機応変に対応しています。浴室にリフト設備を設けて、ひとりで介助しにくい場合でも安全に浴槽に入ることができるように配慮しています。また、ゆず湯等、入浴剤を活用することで入浴を楽しんでいる利用者もおられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や休息が必要な利用者には、自由に昼寝等が出来るように声を掛けて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は直ぐ確認できる場所に置き、内容の把握に努めています。配薬時には名前、曜日、個数等を必ず確認し、誤薬の無いように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割意識を持ってもらうために、家事仕事を毎日行っています。又毎日の散歩や暖かい日は日向ぼっこもしています。懐かしの歌番組を流したりして、楽しく過ごせるよう努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の広場やスーパー、お店に出かけ、時には喫茶店でおやつを食べに出かけています。	ホームでは日常的に散歩に出かけるなど外出支援に力を入れています。車いす利用者も、職員と一緒にホームを出て、静かな住宅街を一回りするなど、外気に触れ、花や樹木にも目を留めて気分転換をしています。近所の住人や犬の散歩中の人とも挨拶を交わし、犬とも仲良くなっています。近くの喫茶店でコーヒーを飲んだり、スーパーで買物をしたり、職員は利用者の希望に添った支援に努めています。また年間を通じてお花見やお食事会等、計画を立てて遠出をすることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理、使える方が居なくなっていますが、援助しながらスタッフと一緒に使っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話の使用は出来ます。手紙等の援助はしていませんが要望があれば可能です。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは常に昔懐かしの音楽が流れ、又歌番組を観たりして穏やかな雰囲気の中で皆さん過ごされています。リビング・ローカには季節に応じて壁画を飾り、立ち止まって見て楽しまれています。	ホーム周辺は閑静な住宅街で隣家との間隔も広く風通しが良い状況です。ホーム玄関横には3人掛けのベンチを並べて、利用者や道行く人々の休憩所となっており自然に地域交流が進んでいます。ホームは2階建てでエレベーターがあり、利用者は自由に昇降できます。浴室には介護用リフトを設置し利用者の入浴支援に活用しています。共有空間は明るく清潔で季節を感じさせる貼り絵や行事の写真等を展示して、家庭的で和やかな環境作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お茶をしたり、テレビを見たりするスペースがあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していたベッドやタンスや鏡台、人形等を居室に置いています。	ホームでは利用者に分かりやすいように居室の扉に氏名や写真等を掲示しています。居室にはタンスや鏡台、仏壇や写真、ぬいぐるみなど利用者の大切なものを配置して暮らしやすくしています。ベッドやタンスは備えつけとていますが、必要に応じて電動ベッドを配置して利用者の利便性を図っています。職員は利用者と一緒に室内の清掃や整理整頓に取り組み、利用者が気持ち良く暮らせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来る事を把握し、家事の手伝い、習字、塗り絵、漢字やことわざの勉強など個々の能力に合わせて行っています。		